



## 鬼

大西 淳子  
(千葉)

川底にひそみいる鬼、草木そうもくに宿りいる鬼、わが裡の鬼

ハンカチをだれも見て見ずコロナ禍の落とし物には鬼が棲むゆえ

富士山が見える大きな窓あれどきよう富士山は見ええず茫茫

女では渡れぬ川があるゆえに鬼を棲まわせ昼をはたらく

はいいろのコンクリートを抜けだしてアースカラーのほんものを見ん

〈きぬがわ〉は耳にやさしく〈鬼怒川〉は目に厳いかにしく流れゆくなり

はるかなる空をおさめてささめける中禅寺湖は宇宙のしずく

晩夏おそなつの午後の湖畔はひかり降りトランペットの音のまばゆさ

遠景の華厳の滝はこれの世のまんやかに立つ銀の鉄塔

とちおとめ練乳がけのかき氷食めば身ぬちにうす紅の滝

汗あえて狭くだりゆき豎琴の滝が奏でるとうめいを聞く

夜の闇にまぎれ露天の湯に入ればわが裡の鬼ひよつと顔だす

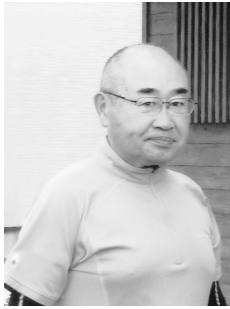
ばらばらの目鼻耳口 黒縁の鏡の中に収めてしずか

〈ほおずき〉は昼をゆたかに〈鬼灯〉は夜を妖しく照らしいるなり

朝の湯に四肢を伸ばして陽を浴びてわたしは金のカピバラになる

### このごろの私

コロナの新規感染者数が減少傾向にあった6月、三年ぶりに帰省しようと夏季休暇を取得したが、第七波に吞まれ直前で断念。代りに県民割を使って鬼怒川温泉に行った。コロナ禍の古里は遠い。



## 時戻り来よ

石田 信夫

(鳥取)

このごろの私  
近所のワイナリーでボラン  
ティアをしている。ブドウの  
剪定作業が主だ。作業は気ま  
ぐれ、一時間以内。八月末か  
らは収穫作業をする。仕込み  
作業はプロに任せて、新酒の  
出来を試飲する。

〈生姜、鯖、塩〉勢いのある文字がならぶ若き日の母の家計簿

四時起きの祖父が魚を仕入れ来て大八車で母と商う

臆病で無口な父が安来節踊りはじめて酒宴たけなわ

野宿して四十キロを戻りたる父よ花見で有り金はたき

食卓の上に蠅取りリボンありときどき兄が捕らえられたり

肥担桶を父がかつぎし山道に萱生い茂り梨畑消えぬ

水を打ちレースのカーテンなびかせて端居の母の顔のおだやか

中学の授業で作りし木の椅子に母を座らす 時戻り来よ

解体し更地となりし実家跡母を立たせば瞑目したり

瓶牛乳すわって飲めど今ひとつ腰に手を当て起立して飲む

七回忌父の墓へと参る小路母は杖付き先導したり

強烈な足蹴をくらう「ごめんな」と母のリハビリパンツおろせば

じつとしていられぬ母を押さえつつ整形外科医もエックス線被曝

「いってきます」「ただいま」の二語くちにしただけの一日終わらんとする

脈拍が百五十打つ母なれど「えらーありやせん」と医師に応える